

言語コミュニケーションA④	講義	教授 藤井 浩	
科目カテゴリー	国際ビジネス学科の必修科目	科目ナンバリング	21200107

1. 授業のねらい・概要

情報があふれ返り、何が真実なのか、本当に必要とする情報はどこにあるのか、見極めることが極めて難しい時代になっている。そんななか、本講では、毎日発行される新聞のコラム、ニュース記事をテキストにして、氾濫する情報や言葉の読み取り方、情報の真偽を見抜き、言葉のもつ意味を正確にとらえる能力（メディアリテラシー、情報リテラシー）を身につける。併せて新聞の歴史、情報発信の新しい取り組みや、優れた詩人たちの作品も紹介し、情報と言葉の多面性、豊かさを学習する。

2. 授業の進め方

- ・新聞社の記者、論説委員として長年、記事やコラム、論説を執筆してきた立場で、ニュースの内容とその背景などにも触れる。受講者には感想、意見を求める。
- ・毎回、新聞の第1面コラムを読み解く小テストを行う。解答は講義終了時に提出する。
- ・毎回、取り上げたコラムやニュース、詩の言葉に対するコメントを講義の終了時に小テスト解答とともに提出する。
- ・試験期間中にレポートを提出する。テーマは講義内で伝える。

3. 授業計画

1. 情報とは何か。正確なとらえ方の基本	8. 新聞をどう読むか①（政治、経済面）
2. ニュース報道の歴史 新聞を中心に	9. 新聞をどう読むか②（社会、地域面）
3. メディアリテラシーとは何か	10. 新聞をどう読むか③（文化、生活、スポーツ面）
4. 新聞コラムの特徴と読み方	11. 報道機関の特質 記者クラブ制度
5. 読み解き方の工夫 主題の見つけ方	12. 双方向性の模索①（投稿欄の多様化）
6. 5W1Hと読解力 「読む力」「書く力」「考える力」	13. 双方向性の模索②（双方向性型報道）
7. 詩の言葉の力 茨木のり子の詩を読む	14. 双方向性の模索③（デザインの重視）
	15. メディアリテラシーを身につけるために

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業計画の各回のテーマについて、事前に可能な限り調べ、授業当日に自分の言葉で質問やコメントできるよう 30 分以上かけて準備しておく。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

毎回提出する小テストの答え、コメント等の内容を、次の回にまとめて紹介して指導、評価し、質問に答える。また、試験期間中のレポート提出時に採点・評価のポイントを説明する。

6. 授業における学修の到達目標

- ・情報を正確に読み取り、真偽を見抜く力をつける
- ・社会生活で不可欠な文章能力の基本を身につける

7. 成績評価の方法・基準

レポート（50%）、毎回提出するコメントの内容、小テストの答え（30%）、授業中の質問、意見等の内容（20%）

8. テキスト・参考文献

毎回、レジュメを配布。参考文献は必要に応じて講義のなかで挙げる。

9. 受講上の留意事項

日々のニュース、大きな出来事に関心を持ち、それに対して自分の意見を持つことを心がける。大きな事件等の発生に伴い、予定の内容を変更する場合がある。受講学生との意見交換等を重視するため、受講人数を30名程度に制限する。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。新聞社に勤務し、記者、論説委員、デスクとして報道、新聞づくりに携わってきた。特に歴史・文化、詩に関わる取材、企画を多く担当した。その経験を活かして講義を行う。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。